

# 法の水荻

大正大学講師 高橋 秀城

(62)

荻の葉の  
そよぐ音こそ  
秋風の  
人に知らるる  
始なりけれ

（古今集）紀貫之  
（秋の葉の揺れ動く音こそ、秋風が人々に知られる始めなのだなあ）  
まだまだ夏の陽気が続いています。二十四節気の立秋（八月七日）を過ぎれば、少しずつ秋の気配も感じ始めます。庭の草木も、初秋の風に揺らめくでしょう。耳を澄ませば、風と触れあう、かすか音色が聞こえてくるかもしれません。冒頭の和歌に見える「萩」の葉擦れの音も、秋の訪れを感じさせるものでしょう。萩は、秋の七草の一つである「萩」と漢字が間違われやすいのですが、全くの別物で、

ススキに似た姿をしています。昔の人々は、そよそよと音を立てる様子に、秋の到来を知ったのでした。  
秋風の  
身にしむことを  
そよそよと  
うなづく萩ぞ  
諸心なる  
（頼政集）  
（秋風が身に染みて、その物寂しさを、「そよよ、そよよ」と頷いてるように揺れている萩は、きつと私と心が通いつているのでしょうか）  
この歌に見られる「そよそよ」には、ふと何かを思い出したり、軽く相づちを打ったりするとき発する「其よ」（「そうぞう」「それそれ」）が掛けられています。萩には「風聞草」という別名があるように、不意に出た

溜息も、きつと間近に聞いているのでしょうか。また「萩」の名は、古くは靈魂を招き寄せるという「ヨグ」（招）が由来とも言われます（折口信夫「花の話」）。とすれば、秋の愁いに耳を傾けてくださっているのは、神様・仏様なのでしょう。あ

は、八月のお盆に帰ってこられたご先祖様が、優しく返事をしてくれているような気がします。日頃のさまざまな思いを離れて心を研ぎ澄ませれば、私達の身の回りには、多くの有り難い声が充ち満ちています。

仏教では、「雑念を払い、安らかな心で、深く真理を追い求めること」を「正念」と言います。ちなみ

に歌舞伎の「正念場」（一番大切な所という用語もこの仏教語の「正念」が基になっています。ここぞという正念場を演じざるには、まずは「乱れない確かな心」（正念）が肝要であるというので



萩の揺らめく音色で秋の到来を知る（写真撮影・高岡輝幸氏）

「正念」をめぐっては、次のようなお釈迦様の弟子の話が伝わっています。仏の御弟子であった周利槃特は、あまりに物覚えが悪く、自分の名前さえも忘れるような状態でした。そこで仏法の例え話として、「正しく見ること」は箒のようなものであり、心を集中させて雑念を払うことは塵取りのようなものだと教えました。箒の名前を復

唱すると塵取りを忘れ、塵取りの名を復唱すると箒の名前を忘れてしまうほどでした。その姿を見て仏は哀れみまじりました。そこで五百羅漢を師匠に任じて、夏九旬の夏安居（旧暦四月十六日から七月十五日までの夏の九十日間）の間に、次のような二つの偈（仏の功德を誉め称える詩）を教えることになりました。

「正念といふは、則ち無念、真実の心なり。」  
（正念というのは、思いを離れた無心の境地であり、究極の心である。）  
「秋の袂」と言われるように、季節の移ろいを感じ、物思いに耽ってしまう日もあるでしょう。そんな時、どんなことをすれば萩の葉は「そよよ、そよよ」と頷いてくれるのでしょうか。  
（栃木北部教区普濟寺）

## 折り折りの記 (96)

波多野 重雄

### 敗戦の軍靴踏む音祈り山

昭和二十年八月十五日正午。昭和天皇の玉音放送で第二次世界大戦は終結。本市は、同月二日未明、B29が二機来襲、死者四百六名。残月は紅い煙に包まれた。同月五日、高尾湯ノ花トンネルのP51列車襲撃の死者は四十九名（他に米子市、福岡市）。

連合軍マッカーサー司令長官は厚木飛行場に到来。本市にも進駐軍が駐留。復員軍人らは軍靴で高尾山薬王院に無事帰還報告と平和祈願の鈴を鳴らした。「敗戦の前後の綺羅の米戀し」敏雄句。  
（高尾山健康登山の会々々長）

## 思空海 (一)

苦難船旅成入唐  
青龍寺僧三千郎  
三千恵愛有空海  
真言正統皇室香

空海様を思ふ (一)

苦難の船旅の末、入唐（中国の唐に入る）を成され、青龍寺の僧侶、三千人に加はられる…

三千の弟子への恵愛（恵果阿闍梨様の恩愛・恵愛）は、空海様一人にそがれ、かくして、真言密教の正統は、皇室にも香る（日本国天皇家にも伝承される）…

## 九州北部豪雨災害により被災された方々に 謹んでお見舞い申し上げます。

九州北部で発生した豪雨災害により、こくなられた方々に衷心よりお悔み申し上げますとともに、水害などの被害に遭われて、今なお困難な生活を余儀なくされている方々に、謹んでお見舞い申し上げます。皆様に一刻でも早く平安な日々が訪れますよう、御祈念申し上げます。

大本山 高尾山 薬王院